

# 今はいなくなったカワウソ

## 1 琵琶湖・淀川水系のカワウソ

カワウソ(ニホンカワウソ)は高知県を最後に1990年代に日本から絶滅してしまったが、明治初頭までは滋賀県内を含めて日本全国の水辺に広く分布していた。彦根藩士の藤井重啓が1815年にとりまとめた「湖中産物図説」(著:1815年)には、酒樽の底に多数の釘を逆向きに打ち込んで、それを水中に設置する落とし穴方式のカワウソ捕獲法が紹介されている。彦根地方には老カワウソが湖の妖怪となったという伝説も伝わっている。大正期の県内各地の郷土史にも本種の記載がある。戦後まで生きていたという話もあるが、確実ではない。

琵琶湖辺に多く存在した内湖にはヨシ帯が発達して餌条件に恵まれていたため、カワウソにとって好適な生息環境であったと思われる。流入河川や県内平地を大きく占める水田も、かつてはカワウソが生息していただろう。下流の淀川水系にもカワウソにとって好適な湿地環境が広く存在した。淀川が木津川や桂川と合流するあたりには小椋池という巨大な遊水湿地が第二次大戦前まで残っていたし、河内平野もかつては大湿地帯であった。淀川水系のカワウソは狂言「鱸包丁」にも登場する。伯父に鯉を買ってくるように頼まれたのに、さぼって用意していなかった甥が「大きな鯉を買ったので、生きたまま持ってこようと思って、淀川の橋杭に結び付けておいたのだが、カワウソに食べられてしまった」とウソをつく場面がある。

瀬田川に流入する大津市の天神川脇に、「膳所へ行く人に『獺の祭みて来よ瀬田の奥』」と記された松尾芭蕉の句碑がある。この句は1690(元禄3)年に門人の酒堂が膳所から瀬田を通して伊賀上野へ出かけるときに芭蕉がおくつたとされる。「あなたは膳所へ行くそうですが、瀬田川の奥へ行ってごらんさい。今頃はカワウソが獺祭という祭をやっていますよ」という意味である。獺祭という言葉は、カワウソが岩の上などで魚を



写真T2-3-1 カワウソ剥製(高知県)



写真T2-3-2大津市枝の獺祭句碑

食べ残した跡が、人間が物を供えて先祖を祭る様子と似ていることからきている。

## 2 絶滅の要因

カワウソを絶滅に追いやった最大の要因は狩猟圧である。明治時代に欧米との貿易が始まると、水中生活に適応したカワウソの緻密な毛皮は高級品として乱獲され、ほんの20年くらいの間に個体数は激減した。それでも第二次大戦後までは各地に残っていたようであるが、本州では1954年の和歌山県を最後に情報がなくなり、北海道や九州でもほぼ同時期に姿を消した。

高度成長による環境変化が始まる直前にカワウソが一斉にいなくなった原因として推測されるのは、1950年代前半から使われ始めた農薬である。当時は農薬の危険性があまり認識されていなかったため、農薬中毒事故や魚の大量死がしばしば発生していた。農薬による急性中毒、生物濃縮あるいは餌動物の減少は、各地のカワウソに最後の一撃となったであろう。水田や湿地で魚やカエルなどをエサとしていたトキやコウノトリが各地から姿を消したのもこうした時期である。

(東京農業大学 安藤 元一)

# カワウ



写真T2-4-1 カワウ(繁殖期の成鳥)

## 2 食性と採食行動

カワウは魚食性の鳥である。採食時に潜水する深さは水面から1m~9.5mで、長いときは、約70秒間も潜るといわれている。1日当たり400g~620gを食べた記録がある日本のカワウは国境を越えるような長距離の渡りは行わないが、季節によって採食する水域を変える。行動時間帯は昼間に限られ、夜間は採食・移動はしない。おもに早朝の2時間ほどの間に採食する。

## 3 県内のカワウの生息状況

県内のカワウはおよそ2月頃から9月末にかけて生息し、主に3月から5月にかけて繁殖活動を行う。県内では、1982年に竹生島で繁殖が確認され、その後1990年代に入り爆発的に増加した。現在の生息羽数は約3万5千羽~4万羽と推計されている。主な生息地は、大規模なコロニー(集団営巣地)となっている竹生島(長浜市)と伊崎半島(近江八幡市)である。他に県内数

カ所の池沼(八王子池等)で生息が認められている。

## 4 カワウの被害と対策

カワウの生息数が極めて多いことから、カワウの採食行動により琵琶湖や河川の漁業に大きな被害が出ている。また、竹生島や伊崎半島ではカワウの枝折りや糞害により樹木が枯死する植生被害が出ている。

このような漁業被害を防止するため、河川では防鳥系の設置を行い、営巣地では銃器駆除が行われている。さらに植生被害を防止するため、竹生島では樹木へのロープ張りやネット掛けによる営巣妨害などが行われている。

(自然環境保全課)

## 1 カワウの分類と形態

カワウはペリカン目ウ科に分類され、世界で約40種が確認されており、アジアやヨーロッパなどに広く分布している。

日本に生息するカワウは、日本とその周辺のみ分布し、主に本州以南に生息しているが、近年、北海道でも生息が確認されている。

カワウの体長は約80~85cm、翼長は31~34cm、体重は約1.5kg~2.5kgである。オスはメスよりやや大きい。羽色は全身褐色がかった黒色で、繁殖期になると頭部と腰部に白い繁殖羽が生じ、目の下の露出部が赤くなり、下嘴(したくちばし)の付け根の黄色い裸出部は黒が混ざり、遠くから見るとオリーブ色に見える。